



# ニュースレター

(第12号) 2005年3月1日発行



## 一年を振り返って

NPO 高知県生涯学習支援センター長 永國 淳哉

ほとんどの県に“公立”としてある生涯学習センターが高知にもほしい。せめて色々な生涯学習を支援する組織がほしい。そんな願いからNPOを結成して一年が過ぎた。多くの方々の協力を得ながら、多種多彩な活動を試みてきた一年であった。

一年目の成果としては、なんといっても活動拠点が確保できたことであった。県視聴覚ライブラリーの団体貸し出し業務、塩見文庫の蔵書管理・館内閲覧貸し出し業務や市町村生涯学習情報収集などを高知県教育委員会事務局生涯学習課から委託を受けることで、高知県教育センター分館南棟2階に絶好の活動基地が確保できた。

公的な予算をあてにした計画が一部あったことは否めないが、当初の計画が十分実施できなかつたことが残念である。「NPO活動は、自主独立を常に心がけるべきである」という原則を忘れてはいけないと反省する一年であり、NPOと行政のあり方の限界を考えさせられた一年でもあった。

当初から計画していたこのニュース・レターも資金がない状態でもやりくりして、予定通り毎月千部発行し、県下一円に配布してきた。

県下の家庭教育センターを中心とした「生涯学習アニメータ月例会」も、座長を引き受けてくれた広瀬典民先生の計画通り実施され、内容も次第に充実してきた。不登校問題を中心として月例会となり、そこからメンタルフレンド活動も生まれた。進路相談会も予定通り3回実施でき、多くの方々の参加と協力を得た。すべて予算なし。全く無料のボランティア活動として

実施。それだけに成果を大きかったと信じている。

予算がないまま実施して関係者に多くの負担をかけた遍路研究の集い。愛媛大学などの協力でフランス巡礼研究者なども加えて「世界から見た四国八十八ヶ所巡礼」として実施。予想以上の参加者を得て嬉しい悲鳴をあげた。他の団体の協力を得ながら実施した歴史ガイド研究会は東津野、浦戸、桂浜と3回。

高知大学の那須恒夫教授を座長としてスタートした早期英語研究部会も1回目より2回目に多くの参加者を得た。県下小学校での英語教育実施状況のアンケート調査もまとめることができた。

職員のボランティアで実施した夏休みと冬休みのパソコン教室や水族館見学会なども、小規模ではあったが好評であった。

山本理事長の頑張りで実施した食文化講座は内容の充実した講義。2期20回も開催され、新年度から第3期(10回)の講座・シンポジウムも計画されている。その講義内容の充実ぶりから言えば、この一年の最大の収穫であったと言えるだろう。全講座をビデオ録画したので、編集して改めて公開する事業が進められている。

### KOLECこどもしばてんカレッジ



### KOLEC進路相談



KOLEC進路電話相談  
(相談無料)

TEL: 088-833-0086

# 食文化連続講座第2期を振り返って

好評の食文化連続講座も2月18日、「食用植物資源を世界に求めて」と題しての牧野植物園園長、小山鐵夫先生の講義で第2期は最終回となりました。11月5日に始まった第2期を振り返って整理しましたが、KOLECでは講座のレジュメ、要旨などをKOLECホームページで公開するべく整理をしています。

食文化講座第2期のトップを切ったのは土佐史研究家、広谷喜十郎氏です。碁石茶を飲みながら、世界に先駆けた日本の三大発明（清酒の低温殺菌法、華岡清州の乳ガン手術、世界一堅い食べ物のカツオ節製造法）を例にとり「土佐産業史からみた飲食文化」を広谷節で聴衆を魅了しました。

続いて11月19日には「人間はどんなマメをたべてきたのか？

その一万年の歴史」を高知大学前田和美名誉教授が世界中を踏破して整理された「マメ科学」の話、また余録として、「ツタンカーメンの豌豆」にまで話を進められ、農業における種子の寿命の意義について考えるのに絶好の機会ともなりました。

11月26日は「私の話は知識としてではなく、感覚として、心で聴いていただきたい！」との前置きで始まったは窪川町松葉川在住の安全をつくる百姓、井口氏の「おいしい」をつくる百姓の話でした。「借りる八合、返す一升」の昔の言葉の重要性が便利さなどで失われていると現代農業に改めて警鐘を鳴らしました。環境汚染の話の中で、R. カーソン「沈黙の春」、「生と死の妙薬」、有吉佐和子「複合汚染」、T. コルボーン「奪われし未来」の四冊の書物を読んでいない聴衆が多かったのが残念でした。作務衣の井口無着氏の句を七つ、

秋雨や夕餉の箸の手くらがり

うすれゆく鮭をたよりの漁師町

山茶花や小雨に庭の薄明かり

小春日や客まかせなる銭の箱

炉辺たのし夜食のものを朴の葉に

炉を開けてみてもつまらぬ独りかな

河豚汁にまた本草のはなしかな

高知女子大学生生活科学部佐藤厚教授は12月3日に「名画

で見る人類健康学」と題して、救荒作物としてのスコットランドでの馬鈴薯作り、絵画に見られた藤原道長の糖尿病などの講義をさまざまなスライドで話していました。

12月10日、この頃となると忘年会シーズンとなり、呵々騒然とした柳町を眼下に見るようになりました。その最中、高知県工業技術センター、野村明氏が「魚練り製品、「かまと？」」の講義をされました。

更に年の暮れも押し迫り、12月17日には、高知大学農学部、沢村正義教授が香りの分析装置は持ち込めなかったが分析装置の心臓部とも言える毛細管カラムの実物を持ち込み、さらに研究成果の一部である某社の菓子も持ち込んでの「食物

の香りの科学」の講義がありました。香りの歴史、香りの分析、かおり風景100選、香りの機能性と多様な講義の展開をされました。因みに香りの100選で高知県は四万十川流域（中村市、西土佐村、十和村、大正町、窪川町、大野見村、東津野村、樺原町）での四万十川の沈下橋をわたる風です。

[http://www.env.go.jp/press/file\\_view.php?serial=2930&hou\\_id=2941](http://www.env.go.jp/press/file_view.php?serial=2930&hou_id=2941)をご覧下さい。

年を開けて1月21日、年始年末の暴飲暴食でダイエットを考

えている方々に絶好の講義「弁当箱ダイエット法」を高知大学教育学部、針谷順子教授にいただきました。詳細は「栄養学雑誌」第61巻、345ページ（2003年）を参照して下さい（文献をご入り用の方はKOLECにご連絡下さい）。

(有)下田食品、下田起義社長自らが「偉大な豆の話」を1月28日に話されました。中国で「偉大豆」と言われた大豆の語源からはじまり、大学の講義でも無い「大豆の食品科学」、「大豆関連食品製造科学」の講義をされました。さらには、会社が倒産しないかと心配するほどのマル秘の製造法などもご披露いただき、健康な食品を改めて考えさせられました。

2月4日、「中国が日本を征服した？ 納豆、蒟蒻の侵略？」と驚くべきタイトルで、高知大学農学部芦内誠助教授が前回の下田社長の講義を継がれました。こんにゃくは中国から仏教と一緒に、あるいは東南アジアから島伝いに我が国に持ち込まれ、古くは「医薬品」、室町時代以降は高級食品だったそうです。また、納豆も東アジア照葉樹木文化圏、稻作農耕地帯にルーツを求める事ができるそうです。いずれも、現代病に悩む現代人の力になりそうな食品であり、今後の研究に待たれるところもある不思議な食品です。

第2期の最終回、2月18日は「食用植物資源を世界に求めて」と題して、世界の市場、山野をことごとく歩かれ、これまで

未利用の植物の中からどのようにして食材に野草などを変換してゆくのか、高知県の特産にするのかなど興味ある講義を牧野植物園、小山鐵夫先生にいただきました。

第3期（最終期）は5月中旬から、ストーブード、新しい食材、高知直販所、地産地消などを9回にわたる講義を用意しています。また、最終回には「地域の安全名素材を求める我が家の料理（仮題）」のシンポジウムを予定しています。

（文責 山本晉平）

# 生涯学習アニメーター2月月例会に参加しました

今回の月例会は、不登校・中退者・進路等の相談を持ち寄り、参加者のみなさん11人でいっしょに話し合いました。参加者の方からのご感想・ご意見をご紹介いたします。

不登校の子どもを持たれる親御さんにとってこのような会はありがたいとつくづく感じました。日ごろのがんばりをこのような場でぶちまけてみてもいいのではないでしょうか。ただしがんばりの裏に子どもに対する期待も大きくなっているようです。結果はどうであれ、子どもに対しての期待を自分へ向けて欲しいと感じました。子育ても自分の人生の中の一つの経験として、子どもにとらわれ過ぎず気負いこみ過ぎず、自分を肯定できる心のゆとりを持って欲しいと思います。心に余裕ができると同じ状況も違って見えてくるはずであり、そこで又あらたないい事にも出会えるかもしれません。どんな時でも前向きで居られるような、大きな心の器が欲しいと願うような会でした。(H)

1月例会に引き続きテーマは「相談事例の持ち寄り」でした。アドバイザーとしては県生涯学習課青少年班の廣瀬雄一先生が出席されました。実際にわが子が不登校・引きこもりになったという、生の思いを体の内か

ら伝えてくださった参加者。周りの人たちの見守り方・支援の方法など、どうすれば自然にスムーズにいくのかと、多くの事柄がだされました。

「まさかうちの子が不登校になるなんて」の困惑の中に他人の助言は「受け入れられない、支持されるのはいやだった。」受け入れるには、ある程度の時間が必要だったそうです。聞く姿勢になるまで、待つ時間が要るということです。

子どもにとって“学校の先生や支援の方々のうわべの付き合い”は通じないです。支援する側も、相手の立場に立っているかどうかを、よく考えなくてはなりません。

高校中退の場合、教育現場からの繋がりが断たれてしまうことになるが、そんな場合のソフト面でのやり方等、難しい現実があるが、相談体制・機関の周知が課題です。(Y)

## 受講生募集

### 歴史ガイド指導者養成講座 古文書解読の基礎(全六回)

歴史文化に恵まれた土佐。この風土の中で古文書が読めたら人生はまた一段と楽しくなります。岡村庄造先生の指導で、初步から指導して頂き、各地域やグループで指導者として活動して頂きたいと思っています。

また毎回、坂本龍馬の自由闊達な手紙を手本に、練習もしたいと計画しています。お友達も誘って気軽に参加してください。

#### 講義日程

月 日	講 義	内 容	実 習
第1回 5月21日(土曜)	古文書の基礎(1) 古文書の書体	古文書学・古記録・解読心得・崩し字等	歌本表紙、女房奉書、龍馬書簡など
第2回 7月 2日(土曜)	古文書の基礎(2) 古文書の書体	変体仮名・候文・散し書き仮名など	一豊妻の散し書きなど
第3回 9月24日(土曜)	古文書の豆知識	異体字・用字・用語・その使用例・維	墓碑・地震碑
第4回 11月12日(土曜)	石碑を読む・(屋外活動)	浦戸城址・桂浜公園の石碑を現場で解読	一領具足碑・城址碑・龍馬顕彰碑・文学碑
第5回 平成18年1月21日(土曜)	野の古文書を読む	年代・形態分類・画像・凡字信仰分類	五輪塔・卵塔・多層塔など
第6回 平成18年3月18日(土曜)	四国の石仏巡礼	スライドによる紹介・まとめ	念仏・宝号・廻国・巡礼・道祖神など

(変更があるかも知れませんので、参加者は電話 088-833-0022  
または、ホームページ <http://www.kolec.jp>で事前に確認をお願いします)

## 3月生涯学習アニメーター月例会 「月例会の総まとめ ~みんなで話し合いましょう~」

今後の月例会の在り方や会への要望等を話し合い、17年度に向けて月例会を盛り上げていけるように、皆さんで話し合います。

日 時：平成17年3月16日(水) 午後2時～3時30分

参加費：無料

場 所：高知市大原町132番地 教育センター分館 南棟2階 中講義室 お申込：電話・ファックス・電子メールにて受け付けています。  
(駐車場あり・「心の教育センター」と同敷地内。体育館北隣りの建物の2階)

## 第32回 高知県子ども英語弁論大会

こども英語弁論大会は、「高知県下の子ども達に国際人としての感覚を身につけ、将来国際社会で活躍できる人間に育てる」という主旨で行なわれます。

こども英語弁論大会では、幼児対象の高知県知事杯、小学校低学年対象の高知ロータリークラブ会長杯、小学校高学年対象の高知市長杯、自由弁論の最優秀賞のジョン万杯、課題弁論の最優秀賞の龍馬杯および幼児と小学校低学年および高学年の合同の熱演賞が各優勝者に贈られます。

日 時：平成17年3月27日(日) 午後1時

申込先：〒780-8031 高知市大原町132番

(参加者多数の場合時間変更があり、幼児の部を  
午前10時30分開会とします)

教育センター分館 南棟2階

会 場：高知県教育センター分館 南棟1階  
大講義室(高知市大原町132番地)

NPO高知県生涯学習支援センター  
こども英語弁論大会係

参加資格：3歳以上、小学6年生まで。(高知県在住の児童)

参 加 費：3,000円(児童は上履きを持参ください)

申込締切り：3月11日(金)

問い合わせ：NPO高知県生涯学習支援センター

こども英語弁論大会担当 秋澤

TEL088-833-0022/FAX088-833-0023

主催：NPO 高知県生涯学習支援センター

後援：高知県、高知市、高知県教育委員会、高知新聞社、読売新聞高知支局、朝日新聞高知支局、毎日新聞高知支局、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんざんテレビ、高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知ロータリークラブ

## 家庭教育関連の行事案内

### 大人のための学習会 子育て講座に参加しませんか!! ～カウンセリング、パート2～

昨年11月に、家庭教育サポーター土佐支部結成記念としまして学習会を開催しましたところ、たくさんの方に参加していただき大好評で終わることができました。

そこで第2回目カウンセリング講座を、右記の内容で開催することになりましたので、ご案内いたします。複雑な社会状況の中で家庭・子どもとどのように向き合ったらいいのでしょうか?初めての方でも大丈夫です、臨床心理学・カウンセリング学の先生と一緒に学び合いませんか?

日 時：3月20日(日) 午後1時～4時

場 所：土佐市社会福祉センター 3階

参加費：100円(資料代等)

講 師：澤田丞司先生(高知大学名誉教授、近畿福祉大学教授)

テーマ：「自分を見つめ、周りの人をささえるカウンセリング入門  
パート2～心に響く援助とは～」

日 程：12:30受付開始～16:00閉会

対 象：子どもにかかる方ならどなたでもかまいません

参加人数：先着 30名程度

申込方法：3月17日(木)までに電話またはFAXにてお申込ください

申込先：家庭教育サポーター 横川由加里

TEL852-5538/FAX852-0243

※託児所対象者：0歳児～小学1年生

託児料金：1人 100円

(2階和室でおこないますので、おやつ・敷物等は各自でご持参ください)



発 行 2005年3月1日

NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)

〒780-8031

高知市大原町132番地(教育センター分館内)

電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023

KOLEC 電話進路相談の電話 088-833-0086

電子メール info@kolec.jp

URL http://www.kolec.jp

発行人 理事長 山本晉平

編 集 NPO KOLEC編集室/印 刷 中島出版印刷

